

オンライン化して自宅で優良運転者講習を可能に

◆オンライン講習を22年度中まで試行し、その後の全国導入を目指す

2020年9月、警察庁が優良運転者の免許証更新時に受講する講習をオンライン化すると報道された。21年度予算に関連経費を盛り込み、講習プログラムを開発して全国の都道府県から1ヵ所、モデル地域を選定して試行する。22年度中まで試行を行い、その後全国に導入する。

現在、無事故無違反などの条件を満たす優良運転者には、試験場などで30分程度のビデオ教材による講習を実施し、更新後の免許証を交付している。オンライン化では、更新期に運転者に送付するはがきにQRコードや固有の識別番号を記載し、パソコンやスマホで講習を受けてもらう。動画は早送りできないようにし、修了画面を印刷するか、スマホなどに保存して窓口に提出する。なお、視力などの適性検査や免許更新手数料の納付などの手続きは従来通り試験場などで行う。

◆行政のデジタル化は身近な課題から始めて、さらに効果の拡大を

優良運転者講習のオンライン化は行政のデジタル化や新型コロナウイルスの感染防止対策の一環として行うものである。現在、運転免許の更新手続きは各地の試験場や警察署などで行っているが、更新希望者が集中する場合があります。新型コロナ対策として密にならない更新手続きが課題となっている。警察庁の運転免許統計では19年の免許更新時の講習受講者約1,580万人のうち、約761万人が優良運転者講習を受けている。この講習をオンライン化するだけでも更新希望者が試験場などに滞在する時間の総和は大幅に削減されるので、混雑緩和には一定の効果がある。早い段階で取り組むテーマとして反対は少ないだろう。

ただし、講習オンライン化を契機に、さらに取り組みを進めてほしい。たとえば、時間別受講者数をネットで公開して、試験場などが混んでいない時間をわかりやすくする。適性検査はどの警察署でも可能にする。さらに更新に必要な手数料の支払いもオンライン化して、優良運転者なら試験場などに行かなくても免許証の更新ができるようにする。こうしたことを実現する手段として行政デジタル化に取り組めば、その効果も大きくなり、賛成も増えるだろう。 【藤井和則】